

第4学年 国語科学習指導案

1 教科と単元名

- ・国語科「本のポップや帯を作ろう/神様の階段」

2 単元目標

- ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
(知識及び技能)
- ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
(思考力、判断力、表現力等)

3 単元の評価規準と創造的な資質・能力の素地を育成する視点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ① 本のポップや帯の役割を理解している。 ② さまざまな本の読み方について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ポップや帯を作って自分が選んだ本を紹介するという学習の見通しをもち、学習計画を立てようとしている。 ② 相手意識をもってポップや帯作りに取り組んでいる。 ③ 学習した読書の方法や表現の仕方を、今後の学習に生かそうとしている。
創造 的 な 資 質 ・ 能 力 の 素 地		<ul style="list-style-type: none"> ① 作品のよさがより伝わるようにするための話し合い活動を通して、選んだ言葉やフォント、レイアウトを複数作成・比較・往還しながら意思決定する。〈試行錯誤〉 	

4 単元設定の理由

【指導事項に関わって】

本単元では、「神様の階段」を読み、ポップや帯を作って紹介し合う活動を設定している。同じ作品を読んでも、それぞれの心に残る文や感想が違うことを知ることで、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気付くことができる。ポップや帯づくりの過程で、作品のよさを伝え合うことによって、互いの興味・関心や、感じ方・考え方の違いに気付かせたい。

【言語活動に関わって】

児童たちはこれまで、物語や説明的文章に触れてきているが、本単元で取り上げている「神様の階段」はノンフィクションである。読書の幅を広げるために、ノンフィクションのおもしろさに目を向けさせたい。

また、本のポップや帯を作り、本を紹介する言語活動が設定されている。その前段として、本の読み方を振り返り、児童同士で話し合う時間が設定されている。本の読み方を確認し、互いに共有することで、読書の仕方への意識を高めさせてから、活動に取り組ませたい。

ポップや帯を作るにあたっては、心に残った文を引用したり、キャッチコピーを考えたりするなど、読む相手にその本のよさがよく伝わるように、児童の創意工夫を引き出したい。

【教材・題材に関わって】

本単元で取り上げている「神様の階段」は、ノンフィクションである。ノンフィクションを読むことの魅力の一つは、自分がそれまで知らなかった事実を知ることができる点にある。身の回りの事柄についての知識が中心だった児童たちも、現在は社会や世界の出来事に興味・関心を向ける児童も増えてきている。「神様の階段」は、児童の興味・関心に応えるものになると考えられる。本作品では、インドネシアのバリ島の美しい自然の写真が多用されている。身近に見る日本とは、気候、風土の違う土地の風景を伝える写真と文章は、児童に新鮮な驚きを与えられると考えている。

5 児童の実態

略

6 指導の手だて

① 試行錯誤できる学習過程・学習環境（試行錯誤の定義は、並木校長の資料に基づいたもの）

→自分が感じたことを、よりふさわしい表現にするために、語源や語調、言葉がもつ印象等を考えながらキャッチコピーを作る時間を設ける。国語辞典や学習用端末を使いやすい環境をつくり、言葉を追究させる。(A)

→選択した言葉や表現についての意図を書かせたり、話させたりする。(B)

→ポップ・帯作りの際は、対象に作品のよさが伝わるようにするために、協働的な学習を通して、児童自身が選んだ言葉やフォント、レイアウトを複数作成・比較・往還させる学習過程にする。(C)

フォント、レイアウトを学習用端末（クラスルーム）に配布し、模倣（参考に）させることで、経験不足を補填したり、苦手感のある児童に向けた簡易化を図ったりする。

② 考えをもつための教具の工夫

→「神様の階段」はバリ島をテーマにしたノンフィクションの教材である。そのため、普段は聞かないカタカナの言葉など自分たちの生活に身近な話ではないため、想像がしにくい。「神様の階段」の書籍（販売されているもの）を用いることによって、教科書に載っていない写真も見せて、情景をより一層想像しやすくする。

→児童が自分の考えをもった上で話し合いに参加できるようにするために、キャッチコピー・ポップ・帯の見本を多く準備（市販のもの、本校に勤務する教職員の創作等）する。児童の様々な価値観や感性に

対応できるように、7種程度の型を準備した。

③ 学級の時間を利用した言葉遊び

→市販の食品や、薬品、映画、スポーツ選手等の著名なキャッチコピーをクイズ形式で行う。学級での朝活動に取り入れ、言葉に触れる時間を増やす。

7 指導計画（5時間）

時	○主な学習活動 (児童がすること)	・指導の留意点 (指導者がすること) ★指導の手だて〈具体的手だて〉	◆評価規準【観点】(方法) ◇創造的な資質・能力の育成に関する視点【観点】(方法)
1	<p>① ポップや帯について知り、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>本の読み方について知り、考える。</p>	<p>・活動の見通しがもちづらい児童には、教師があらかじめ用意したシンプルなポップや帯の完成形を見せる。</p> <p>・「題名」、「作者・筆者」、「心に残った文の引用」、「引用した理由や感想」を入れることを本単元のポップづくりの約束にすることを押さえる。</p> <p>★キャッチコピーの型(質問型、わくわく型、呼びかけ型など)、つくるための本の読み方を提示する。何か身近な作品を用いて手本を示し、見通しを持たせる。</p>	<p>◆【知識・技能】① (発言・記述)</p> <p>◆【主体的に取り組む態度】① (観察・発言)</p>

2	② 「神様の階段」を読む。キーワードやキャッチコピーを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を振り返り、本の読み方を再確認する。 ・まずは教師による読み聞かせ。次に、児童自身による黙読をすることで、文章を読む時間を確保する。 	<p>◆【知識・技能】② (観察・発言)</p>
3 (本時)	③ 自分で作ったキャッチコピーを元に、友達と意見を交流する。キャッチコピーを決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品のよさに気付かせたり、感じたよさを他者に広げたりするために、意見交流の場を設ける。 ★自分の考えを、よりふさわしい表現するために、語源や語調、言葉がもつ印象等を調べさせながらキャッチコピーを考えさせる。 ★選んだ言葉の良さやねらいを自分なりに説明できるように、理由を書かせたり、複数名で伝え合ったりする場を取り入れる。 	<p>◆【思考・判断・表現】① (発言・記述)</p> <p>◆【主体的に取り組む態度】② (観察・記述)</p>
4	④ ポップまたは帯にキャッチコピーをかく。	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに苦手意識がある児童には、学習用端末を使い、文書作成ソフトを用いることで抵抗感を軽減させる。教師が予め作成したひな形に打ち込む方法も用意しておく。 ★作品のよさが伝わるようにするために、選んだ言葉やフォント、レイアウトを作成・比較・往還させる。 	
5	⑤ グループで作ったポップまたは帯を紹介し合い、よいところを伝え合う。学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介する形態は、学級児童数を考慮してグルーピングしておく。 ・進度が早い児童には、ポップと帯の両方を作る。 	<p>◆【思考・判断・表現】① (発言・記述)</p> <p>◆【主体的に取り組む態度】③ (観察・発言)</p>

8 本時の指導（全5時間中の第3時）

（1）目標

- ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあると気付くことができる。

（2）展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（方法） ★指導の手だて〈具体的手だて〉
導入	○前時までの学習内容を振り返る。 ○本時のめあてを確認する。	★前時に提示したキャッチコピーの型や例を改めて示す。
	「神様の階段」のよりよいキャッチコピーを考えよう。	
展開	○教師が作ったキャッチコピー（悪い例、直す点があるもの）を見て、直すところを見つける。 ・長いから短くした方がいいと思う。 ・「何か」があるから、ふんわりとしている。もっと具体的に説明するべきだと思う。 ・言葉を変えた方がいいと思う。 ○「神様の階段」を読む。 ○前時に考えたキャッチコピーを見直す。 ○よりよいキャッチコピーを考える。 ・私はここが心に残ったから、この一文を作ったよ。 ・面白いところがこの内容だと思ったからこの言葉を選んだよ。 ○友達の考えを知る。 ○友達の意見をふまえて、再度見直しをする。 ○キャッチコピーを決める。	★児童同士の「観察における、些細な変化などを逃さない心の在り方」を意識して指導・支援する。 ★新たに思いついたキーワードやキャッチコピーがあれば、記録しておくように促す。 ★必要に応じて、国語辞典や学習用端末を使うように促し、決めたキャッチコピーを追究させていく。 ◆文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあると気付いている。 【思考力・判断力・表現力】①（ワークシート） ★キャッチコピーの意図を問い、個々の感じ方のよさを広めていく。
振り返り	○話し合いで新たな視点を得たり、よりよいイメージができたりしたことについて振り返る。 ○次時の学習内容を知る。	★観察で得た情報を基に、指導者が指名する。 ◆文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあると気付いている。 【思考力・判断力・表現力】①（ワークシート・発言）

（3）授業観察の視点

- ・協働的な学習活動を通して、一人一人の感じ方の違いに気付きながら、自分の考えを広げたり確かめたりすることができていたか。